日新聞　第三種郵便物認可

世界と戦う「なでしこ」育成

佐久の病院勤務 スポーツトレーナー西村さん

日本選抜14歳以下の監督に就任

佐久市下小田切の医療法人「雨宮病院」に勤務するスポーツトレーナーの西村陽介さん(34)が、今季のサッカー日本選抜女子U−14の監督に就任した。将来の「なでしこジャパン」のメンバーに成長する可能性がある14歳以下の選手たちの育成を担う。「緊張感がある仕事。世界と戦う選手を育てたい」と意気込んでいる。

長野市出身。4歳からサッカーを始め、プロ選手を目指して松商学園高校(松本市)に進学。早い時期から引退後のセカンドキャリアを意識し、都内の専門学校で2年間、サッカーのコーチングや心理学なども学んだ。

卒業後は雨宮病院に就職。雨宮雷太院長がサッカーを続けることを応援してくれ、23歳の時にオファーがあったオランダのプロチームへ。2005〜08年に2チームでプレーヤーとユースなどのチームコーチを務めた。

オランダでは試合中に左足首を剥離骨折する大けがを経験。子どもたちに手本を見せることができるうちに、指導者になろうと、13年に日本サッカー協会公認A級コーチライセンスを取得した。15年からは、日本選抜女子U−13、15のコーチを務め、16年に日本選抜女子U−13の監督に抜てきされた。

U−14の監督として今年4月に中国遠征などを実施。11月に控える日韓交流戦が一番の目標という。監督以外にも、同協会が選抜者を対象に行う講習会「ナショナルトレセン」の北信越女子のコーチも担当。6月24、25日も石川県七尾市を訪れ、北信越の12歳の女子選手たちの指導に当たった。県のトレセンなどにも頻繁に顔を出し、休日はサッカー、平日は病院でのトレーニングの指導やリハビリの計画作りといった二足のわらじを履いている。

指導者として大切にすることは、自分で考えることができる選手の育成だ。「サッカーは状況が刻一刻と変わり、自分で最善の手を判断しないといけない。答えがない状況で、ボールをどうコントロールするかが世界と戦う上で求められる」と強調する。

地元でのサッカー指導にも力を入れ、園児から中学生までを対象にした「雨宮病院サッカークリニック」を定期的に開催している。

「オランダでは子どもの時から所属できるサッカーチームがある。プレーヤーを引退しても、スタッフなどとしてチームを支えていた。文化としてのサッカーを日本でも実践したい」。それが将来の日本代表選手を育てることにもつながると信じている。

北信越のナショナルトレセンで選手たちに声を掛ける西村さん(左)＝6月24日、石川県七尾市

投資名目の詐欺 山辺被告認める

熊本地裁初公判

大手企業への融資事業と偽り、投資名目で会社役員の男性から2千万円をだまし取ったとして、詐欺罪に問われた無職山辺節子被告(62)は4日、熊本地裁(溝国禎久裁判官)の初公判で「間違いありません」と起訴内容を認めた。公判後、弁護側は「被告は一連の事件を反省し、被害者に申し訳ないと思っている」とのコメント。

山辺被告は熊本県益城地、熊本県益城町で手配され、逃亡していると、配当の支払柄を拘束されなくなり、2014年逃亡を開始。16年を出国した後は、ずるなどしていた。

検察側は言葉巧みにごろから知人にを持ち掛けるよう指摘。だました

安曇野の特養死亡事故

被告近くにいた同僚男性が証言

地裁松本支部公判

安曇野市の特別養護老人ホームで2013年12月に入居者の女性=当時(85)=がおやつのドーナツを喉に詰まらせて窒息、翌年1月に死亡した事故で、業務上過失致死罪に問われた松本市の准看護師山口けさえ被告(57)の第8回公判が4日、地裁松本支部(野沢晃一裁判長)であり、事故当時に被告と一緒に入所者のおやつの世話をしーブルに付き、おやつの介助を明。男性が被告には、女性にはなかった」と後、別の同僚の付いたとした。

検察側は、女を喉に詰まらせとし、特養が事に、女性に提供ゼリー状の食品り、「被告は確認すべきだっている。弁護し、男性は変更に出席していた「(形態変更は